

## 6月補正予算

【一般会計】	3億 1,022万 1千円
【特別会計】	1,158万 1千円
【企業会計】	105万 7千円
【補正総額】	3億 2,285万 9千円

※一般会計、特別会計、企業会計を合わせた予算総額の前年度同期比は、3.8%の減となります。

### 【一般会計補正予算の主な内容】

- ◎総務費…… 4,214万 5千円  
緊急告知ラジオ等整備事業費、新・省エネルギー推進事業費 ほか
- ◎農林水産業費…… 1,394万 3千円  
増幌地区道営農用水整備事業費 ほか
- ◎商工費…… 8,687万 3千円  
観光振興対策事業費、ネベリス市友好都市40年記念事業費 ほか
- ◎土木費…… 6,800万円  
単独地方道路整備事業費
- ◎消防費…… 8,810万 6千円  
消防事務組合負担金事業費(消防救急通信指令設備の更新)
- ◎教育費…… 1,130万 1千円  
各種大会等補助事業費 ほか

善を図ることを目的に、情報発信や情報交換、政策の提言などを行い、課題解決に向けた取り組みを行うものとする。

会合では、「離島航路利用者」に配慮した機能」と「離島輸送ルートの確保」の2点について意見交換を行い、オブザーバーの北海道開発局、北海道運輸局からも助言を頂き、協議会の合意事項について、共同声明を採択しました。

声明には、重点検討事項として具体的に3点を挙げました。

1 点目は、フェリーとフェリーターミナルのバリアフリー化の実現、2 点目は災害時の備えとして耐震強化岸壁の早期完成、3 点

目は流水期などの離島航路の代替確保のための天塩港の整備です。

これらの重点検討事項について、関係者・関係機関への要望を行うことも確認しました。

会合終了後に、引き続き開催した国政要望会を皮切りに、各政党に働きかけを続け、今後も継続して要望行動を続けていきます。

### 防災ガイドマップの全戸配布

「稚内市防災ガイドマップ」が完成し、4月号広報紙と一緒に、全戸配布しました。

この冊子には、避難場所、津波浸水予測、土砂災害危険箇所などを表示した地区

毎のマップのほか、日ごろの備えや避難時の心得など、災害発生時に役立てて欲しい情報を掲載しています。

津波や土砂災害に関しては、北海道が公表する被害想定に基づき作成し、津波については、利尻・礼文沖を震源とする大津波の発生を想定しています。

津波発生時の避難の目安とするため、地区ごとの津波の高さや到達時間を掲載したほか、各避難場所の標高表示も加えました。

防災ガイドマップの活用や見方については、順次、各地域で説明会などを開催しています。

東日本大震災を教訓にすると、災害発生時は、まず避難が第一であり、そのた

めには迅速な情報伝達と、地域の中での助け合いが何より重要です。

情報伝達については、「緊急告知防災ラジオ」システムの導入を計画し、本年度はまず、親局と屋外拡声器の整備、学校や公共施設などへの専用ラジオの配備を行います。

地域の中での助け合いについては、自主防災組織を育成しながら、どうすれば確実に避難できるかを地域の皆さんと一緒に考え、地域毎に避難計画の策定を進めていきたいと考えます。

また、6月12日に市庁舎に標高表示看板を設置しました。



英語とロシア語を併記した看板

今後、市内25か所に設置を進めていくほか、専門家の検証による提言を受け、避難場所、避難経路につい

ても、本年度中に見直しを完了する予定です。

このガイドマップで、市民の皆さん一人ひとりの意識を高めていただきながら、市としても皆さんが安心して暮らよう、防災体制の強化を図っていきます。

### 子育て支援策の拡充

次代を担う子どもたちの健全な育成と、親が安心して子育てできる環境の整備は、私のまちづくりの大事な柱の一つであり、この4月から、子育て支援策の充実を図りました。

1 点目は、小学生までの医療費を、入院・通院とも無料化する医療費助成の拡充です。

制度はスタートしたばかりですが、このたび拡大した小学生の通院部分では、4月実績として、延べ1,242件、助成額にして約288万円で、保護者の負担軽減が図られました。

助成を受けるためには申請が必要な旨、個別にお知らせし、該当されると思われる方の多くは申請を終えている状況です。対象となる方が漏れることなく助成を受けられるよう、さらに周知に努めます。

2 点目は、保護者が病気や出産、家族の看護などで

必要な場合に、一定期間子どもを預かる「ショート・ステイ事業」です。

里親や保育士などの資格を持ち、一定の経験を持つ方々に、説明会を開催して受入先としての指定を終えました。

実家が遠方にあるなど、近くに頼れる人がいない場合に、セーフティネットとして利用していただけるよう周知して、子どもの安全確保と育児不安の解消を図っていきます。

また、母子家庭を対象に、就業のための資格取得などに利用できる「給付金制度」を開始し、対象者へのご案内を行ったところです。

これらの子育て施策を活用して、それぞれの家庭にとって最適な支援策を講じていきます。

### 開業医の誘致

本市にとって、開業医誘致助成第2号となる小児科医院が、本年11月頃を目途に、富岡地区に開院される

こととなりました。

先の3月定例会で、ご報告したとおり、神奈川県相模原市在住の勤務医「伊坂雅行医師」から助成申請書が提出され、受理していました。

その後、ご本人にも同席いただき、3月16日に開催した「開業医誘致助成審査委員会」で、委員の皆様から満場一致の賛同を得たところです。

市では、審査委員会の意見を受け、助成を決定する旨、3月末に通知いたしました。

6月3日に地鎮祭が行われ、現在、診療所の建設工事が行われています。

多くの皆さんが切望し、期待を寄せている新たな小児科医院の開設は、地域医療全体の充実に繋がるものであり、その影響力は計り知れないと考えています。

地域に根ざした家庭医であることを理念とされる、伊坂医師のご活躍を、大いに期待申し上げます。



地鎮祭での鉄入れの様子